

令和3年度（2021年度）第2回公立高等学校配置計画
地域別検討協議会における主な意見及び道教委の考え方

北海道教育庁学校教育局高校教育課

令和3年度(2021年度)第2回公立高等学校配置計画地域別検討協議会開催日程一覧

- ・下記に記載の開催場所に来場しての参加
- ・参加者のPC等からZoomアプリを用いたWeb会議への参加

学区	開催日	開催時間	開催場所
空知南	令和3年(2021年) 7月15日	14時30分 ~ 16時00分	空知総合振興局
空知北	令和3年(2021年) 7月15日	10時20分 ~ 11時50分	砂川市地域交流センターゆう
石 狩	令和3年(2021年) 7月26日	15時30分 ~ 17時00分	北海道庁別館
後 志	令和3年(2021年) 7月30日	10時30分 ~ 12時00分	後志合同庁舎
胆振西	令和3年(2021年) 7月14日	15時00分 ~ 16時30分	むろらん広域センタービル
胆振東	令和3年(2021年) 7月14日	10時30分 ~ 12時00分	むろらん広域センタービル
日 高	令和3年(2021年) 7月15日	14時30分 ~ 16時00分	日高合同庁舎
渡 島	令和3年(2021年) 7月30日	13時30分 ~ 15時00分	渡島合同庁舎
檜 山	令和3年(2021年) 7月8日	13時30分 ~ 15時00分	檜山合同庁舎
上川南	令和3年(2021年) 7月27日	10時30分 ~ 12時00分	上川合同庁舎
上川北	令和3年(2021年) 7月27日	15時00分 ~ 16時30分	名寄市駅前交流プラザ「よるーな」
留 萌	令和3年(2021年) 7月16日	13時30分 ~ 15時00分	苫前町公民館
宗 谷	令和3年(2021年) 7月19日	13時30分 ~ 15時00分	宗谷合同庁舎
林-ツ中	令和3年(2021年) 7月20日	14時30分 ~ 16時00分	北見市端野町公民館
林-ツ東	令和3年(2021年) 7月20日	10時00分 ~ 11時30分	オホーツク合同庁舎
林-ツ西	令和3年(2021年) 7月19日	14時30分 ~ 16時00分	ホテルサンシャイン
十 勝	令和3年(2021年) 7月21日	10時00分 ~ 11時30分	十勝総合振興局
釧 路	令和3年(2021年) 7月26日	13時00分 ~ 14時30分	釧路センチュリーキャッスルホテル
根 室	令和3年(2021年) 7月20日	10時00分 ~ 11時30分	標津町生涯学習センターあすばる

参加者数一覧

会場 (学区)	参加者										計 E (A+B+C+D)	傍聴者 F	合計 G(E+F)
	行政 関係者 A	学校関係者			計 B	PTA関係者			計 C	経済団 体関係 者計 D			
		小学校	中学校	高等学校		小学校	中学校	高等学校					
空知南	10	6	9	11	26	1	4	7	12	3	51	15	66
空知北	18	8	14	9	31	3	5	3	11	4	64	13	77
石狩	8	0	14	39	53	3	5	5	13	1	75	5	80
後志	26	18	20	17	55	7	9	9	25	4	110	2	112
胆振西	6	5	6	12	23	3	2	4	9	1	39	1	40
胆振東	5	5	5	13	23	0	1	1	2	1	31	0	31
日高	7	4	5	7	16	0	1	3	4	2	29	1	30
渡島	12	9	9	23	41	2	2	3	7	0	60	9	69
檜山	8	7	7	4	18	2	1	1	4	1	31	3	34
上川南	17	7	11	21	39	0	0	4	4	0	60	9	69
上川北	12	6	7	8	21	0	1	4	5	1	39	6	45
留萌	14	7	6	5	18	1	2	3	6	2	40	3	43
宗谷	11	10	10	7	27	0	0	3	3	0	41	1	42
オホーツク中	23	6	7	11	24	2	7	6	15	2	64	17	81
オホーツク東	6	0	6	5	11	0	3	3	6	0	23	1	24
オホーツク西	8	4	9	5	18	1	2	1	4	4	34	3	37
十勝	27	15	19	18	52	7	10	4	21	3	103	2	105
釧路	11	5	6	15	26	1	4	8	13	3	53	11	64
根室	6	4	5	6	15	1	2	3	6	2	29	4	33
合計	235	126	175	236	537	34	61	75	170	34	976	106	1,082

主な意見及び道教委の考え方

■ 高校教育全体の充実	
意見又はアンケートの概要	道教委の考え方
① 地域をつくる人材を育成するため、小学校段階から高等学校までの一貫したカリキュラムの作成や、キャリアパスポートなどを活用しながら記録するなど、地域と子供をつなげていく教育活動の中で、子供が変容していく自分を捉えることが大切と考えた。	○ 地域の発展に主体的に参画できる人材を育成する視点に立って、確かな学力や社会的・職業的自立に向けた資質・能力を育成できるよう、地域の人材や自然、産業などの教育資源を取り入れた教育活動を行うなど、地域の特性を生かした活力と魅力のある高校づくりに取り組みます。
② 高校の魅力化、特色ある高校づくりは、特に普通科では、大きな課題。地域や他校の状況を踏まえながら、多方面と協力しながら、進めなければならない。	○ 各高校では、地元市町村や企業等とも連携し、地域課題の解決等に取り組む学習活動を推進するなど、生徒や保護者にとっても一層魅力ある高校づくりに向け、地域の方々と協議していく考えです。
③ 中学生が、自己実現にむけてキャリア形成していくうえで、学びたい内容・学びたい環境等が高校の選択肢になるよう、定数ばかりに固執することなく、各高校の特色重視で存続や配置を考えていただきたい。	○ また、道教委では、平成30年度から、地域の課題解決に取り組む「高等学校 OPEN プロジェクト」を通して、地域の担い手となることができる人材の育成に取り組んでおり、今後はその成果の普及に努めます。
④ 地方の公立校の場合、地域創生にむけた取組と合わせて、地学協働活動の取組をますます発展・充実させていく必要があると考える。	○ さらに、道教委では、地域学校協働活動を「地学協働」と造語化し、「学校を核とした地域づくり」を目指しています。令和3年度から、実証事業として、「北海道 CLASS プロジェクト」を開始し、地域や産業界との連携、学んだことを将来へ生かす能力、大人と子供が一体となった取組の推進、生徒理解に基づく指導の充実、学校と地域の連携・協働の仕組みづくりの5つの視点から、取組を推進しています。
⑤ 生徒の能力・適性や興味・関心を踏まえた学びの実現、文系・理系に捉われない一人ひとりの生徒にとって将来のキャリア形成に必要な科目の機会の確保のため、普通科改革は必要。高校では義務教育で培ってきたものをさらに発展させ、地域や社会の将来を担う人材の育成を図る教育が一層重要となる。	○ 今後は、国において本年1月に示された中央教育審議会答申で、新時代に対応した高等学校教育の在り方について示されたところであり、道教委としても、国の動向を注視しながら、高校の魅力づくりについて更に検討を進めます。
⑥ 社会を担う子供たちに自分の地域を誇りに思える特色ある教育活動の構築が重要。高校教育は、その力をつけるための核であり、地域のコミュニティとして、様々な活動を発信してほしい。	

■ 高校の魅力化について	
意見又はアンケートの概要	道教委の考え方
<p>【魅力化の推進】</p> <p>① 地域の特性やニーズに耳を傾け、地元自治体及び地域と連携しながら、特色ある教育活動や学習内容の充実など、高校進学者のニーズに合った高校づくりを進めるとともに、高校の魅力などを中学生や保護者に十分周知することが大事。</p>	<p>○ 生徒の多様な学習ニーズに応じて学校を選択できるよう、学校・学科の配置状況等を考慮し、地域の要望も伺いながら、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路希望等に応じて共通教科や専門教科から必要な科目を選択して学習できる総合学科 ・進路希望等に応じて共通教科を中心に必要な科目を選択して学習できる普通科単位制 ・進路希望等に応じて共通教科のほか専門教科においても必要な科目を選択して学習できる専門学科単位制

<p>② 今回の会議において、各高校における改善・工夫の取組が報告されていたため、今後、高校間連携が進み、管内規模において高校の特色（役割）が明確となり、進路選択に結びついてほしい。</p>	<p>・6年間の計画的・継続的な教育活動を行う中高一貫教育 といった多様なタイプの高校づくりや地域の特性を生かした魅力ある高校づくりに努めます。</p>
<p>③ 高校の魅力中学生の早い段階で理解してもらうことは大事。そのために小中高の連携は大切。親世代もいろいろな変更でわかっていないことも案外多いと思う。</p>	<p>○ さらに、令和4年度から新たな特色ある高校として、生徒が自己の生き方を考えながら、「分かる喜び」を感じたり、「もっと学びたいという気持ち」を高めたりすることができるよう、学ぶ意欲に応える学習指導により、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着や、社会生活や職業生活に必要な基本的な能力や態度の育成に重点を置くアンビシャススクールを2校に導入します。</p>
<p>④ 未来を拓く子供たちの育成に向けた「アンビシャススクール」の導入は、大変興味深い。確かな成果が現れることを期待する。</p>	<p>○ また、令和2年12月には、地域創生の観点からも、地域と連携・協働し、生徒から選ばれる魅力ある高校づくりを推進する必要があると考え、「地域創生に向けた高校魅力化の手引～高校と地域の連携・協働を進めるために～」を作成・配布しました。</p>
<p>⑤ 地域創生に向けた高校魅力化や多様なタイプの高校の成果、特色ある高校づくり・高等学校教育改革等は様々な取り組みが行われていると思うが、現在の中学生が進学したいと思う学校像が見えてこない。地域の高校として、高校から小学校、中学校に対してどのような高校であれば地元高校に進学を希望するのか聞き取ってほしい。</p>	<p>本道が将来にわたって輝き続けていくためには、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという理念の下、学校と地域の連携を深め、情報を共有するとともに、協働して地域の人材を育成することが重要と考え、学校の取組を支援します。</p>
<p>【具体的な取組と課題】 ⑥ 現在、小中学校では地域とつながる活動を様々整えつつある。高校は小学校・中学校と比較して通学地域が広く大変かと思うが、より地域にアプローチすることで存在感を増すことができると思う。</p>	<p>○ 「地域創生に向けた高校魅力化の手引～高校と地域の連携・協働を進めるために～」においては、「高校の魅力化」を、生徒や学校、地域の実態を踏まえ、地域と連携・協働して、社会の変化や生徒の多様な学習ニーズに対応した教育活動を展開することにより、生徒の自己実現に寄与することができる高校づくりを推進し、生徒から選ばれる学校になること、と定義しています。</p>
<p>⑦ 各高校では、地域と一体となって魅力のある学校づくりが進められていると感じている。入学希望者の減少は「魅力がない」ということではない。どの高校も管内では小規模化し、学科や部活動の数、進学コースなど、中学生のニーズに答えられなくなっているのが現状。地方高校への支援の拡充を期待したいと思う。</p>	<p>魅力化を進めるに当たっては、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校の魅力化を推進するためには、学校と地域が連携・協働すること ・各学校の置かれている状況・課題・地域の要望を把握、把握した状況や課題・要望を踏まえて魅力化の方策を検討、方策の実施・成果検証をするという手順を踏むこと
<p>⑧ 少子化の中で、高校には特色があり、生徒に魅力的な学校になっていただきたい。生徒が将来を見越して選択することが大切だと感じた。</p>	<p>が重要と考え、高校の取組を支援します。</p> <p>○ また、令和3年4月、有朋高等学校内に北海道高等学校遠隔授業配信センター（愛称：T-base（ティーベース））を開設し、遠隔授業の配信等を通して地域連携特例校や離島にある高校の教育課程の充実を図ります。</p>
<p>⑨ 小学校・中学校でもキャリア教育で地域と連携した授業を行っているが、高校との連携ができていない。小中高連携したキャリア教育の計画策定を進めていけたら良い。</p>	<p>○ さらに、平成30年度から実施した、地域の課題解決に取り組む「高等学校 OPEN プロジェクト」を通して、地域の担い手となることができる人材の育成に取り組んでおり、今後はその成果の普及に努めます。</p>

<p>【広報・周知】</p> <p>⑩ 高校入学後に後悔のないよう、それぞれの高校の特色を生徒・保護者に知らせる機会を多くもっていただきたい。説明会・体験入学、学校だよりで情報を得ることができるが、高校がない地域に住む中学生には、進路選択のためにより多くの情報が必要であると考ええる。</p>	<p>○ 多様なタイプの高校を紹介したパンフレット「わたくしの進路」を毎年度作成し、市町村教育委員会や中学校等へ配付するとともに、高校教育課のホームページに掲載しています。</p>
<p>⑪ 学習したことを地域に還元している学校が増えてきた。どの学校も知恵を絞ってよりよい学校づくりを目指していることに敬意を表する。</p>	<p>○ また、多様なタイプの高校の教育内容を紹介したビデオについても同じく高校教育課のホームページに掲載し、順次内容の更新を行っています。</p>
<p>⑫ 普通科の魅力や成果の発表がわかりにくい。普通科の総合的な探究の時間の実施について、もっと地域に発信することが大切ではないか。どのようなことが行われているのか、外から分かりにくい。</p>	<p>○ 各高校では、ホームページや学校案内などのパンフレットの作成・配布のほか、中学生を対象とした体験入学において、積極的に情報提供を行っています。 注：道内公立高等学校のホームページは次の URL を参照してください。 http://www.hokkaido-c.ed.jp/kouritsu/index.html</p>

<p>■ 小規模校・地域連携特例校</p>	
<p>意見又はアンケートの概要</p>	<p>道教委の考え方</p>
<p>【教育環境の維持・向上】</p> <p>① 今後も進んでいく少子化に合わせた配置計画を行うことは当然だが、教育の質は落とさないよう今後も配慮していただきたい。</p>	<p>○ 他の高校への通学が困難な地域を抱え、かつ地元からの進学率が高い第1学年1学級の高校を地域連携特例校とすることで、北海道高等学校遠隔授業配信センターからの授業配信や、協力校からの出張授業などにより、教育環境の維持向上を図ります。</p>
<p>② 時代の変わり目で、今までのシステムが通じなくなっている。地域やそこに住む子供たちが教育格差なく、将来に向かって歩めるインフラを整えるべく議論していただきたい。</p>	<p>○ 地域連携特例校においては、協力校からの出張授業のほか、協力校との間で生徒会の交流や部活動の合同実施、長期休業期間中における協力校の進学講座への参加など、両校が連携した教育活動を行うなどして、教育課程の充実に努めています。</p>
<p>③ へき地には、へき地のよさがあるとともに、少人数ではあるにしても一定数のニーズがある。特に経済的に厳しい家庭も少なからずあるので、現在の高校への進学率を考えると、経済的な理由で進学を諦めざるを得ないという状況が起きないような対応が必要だと考える。</p>	<p>○ 地域連携特例校と協力校の取組については、毎年度成果や課題を調査し、把握した課題については速やかに対処するとともに、地域連携特例校・協力校連携研究協議会において、情報交換や研究協議を行うなど、支援の充実に努めています。</p>
<p>④ 小規模校では、展開授業など、きめ細かな授業が行われている。そのような学校側の努力や学力保障の工夫等が魅力化に繋がっている実態がある。地域の特性や実態をしっかりと聞き取り、今後の配置計画を行っていただきたい。</p>	<p>○ また、小規模校において、確かな学力や職業観・勤労観、地域産業を担う実践的な能力が育まれるよう、学力向上や職業教育などの研究指定に加え、平成27年度から3年間「小中高一貫ふるさとキャリア教育推進事業」を実施し、その成果の普及を図っているほか、1学年1学級の高校に対する道単独の教職員の加配を措置しています。</p>
<p>【遠隔授業等】</p> <p>⑤ T-base の多様な取組に期待している。大学や企業等の協力を得た多様なカリキュラムなど、魅力あるセンター機能に期待している。</p>	<p>○ 北海道高等学校遠隔授業配信センターは、 ・子供たちが、どの地域においても自らの可能性を最大限伸ばしていくことができる、多様で質の高い教育を提供するため、大学進学等の希望に対応した教科・科目を配信し教育内容の充実に図ることが ・小規模校が、魅力化に取り組むことで、子供たちが地元で育ち、地域に愛着と誇りをもってふるさとの発展に貢献していく意欲を育むことを目的としています。 また、配信センターと地域連携特例校及び離島の</p>

<p>⑥ 生徒の人数が減ったことを理由にして学級数を減らすべきではない。魅力の創出等で生徒数を増やす施策を講じていくのはもちろんだが、T-base等の取組を活用して、少人数でも子供たちに最適で高度な学びを提供できることを最大の目的として、道も取り進め、国へ要請していただきたい。</p>	<p>高校を相互に結び、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数の高校へ授業を同時配信し、他校の生徒とともに学ぶ合同授業の実施 ・大学進学など、同じ目標を持った他校の仲間と切磋琢磨した学び ・夏季・冬季休業中の進学講習の受講 ・全国の最新情報を踏まえた進路指導の支援を行うなど、教育環境の充実に努めます。
<p>⑦ 生徒の興味・関心や進路希望、安全安心を保障し、地元の多くの子供たちが、その地域連携特例校としてある高校を選択することができるカリキュラムとしてしっかりと示していくことが大切。T-baseを単なる遠隔授業ではなく、しっかりと入学から卒業までコースとして生かしていくカリキュラムにしていくことが大事と考えている。</p>	<p>○ 平成29年度から5年間、対面による授業時数を緩和した遠隔授業の単位認定の在り方等についての研究開発に取り組んでおり、今後は、生徒の理解力に応じた個別支援や授業者と受信側のサポート教員の連携といった課題の改善のほか、遠隔授業に関わる教員の指導力向上のための研修など、遠隔授業の充実にに向けた取組を進めその成果の普及に努めます。</p>

<p>■ 高校配置計画の策定</p>	
<p>意見又はアンケートの概要</p>	<p>道教委の考え方</p>
<p>【基本的な考え方】</p> <p>① 今後も人口減少や少子化は続くことが予想される。中卒者の減がクラスの減とならないような対策が必要となる。課題はあると思うが、少人数のクラス導入などの柔軟な取り組みが必要。</p>	<p>○ 高校配置計画は、高校進学希望者数に見合った定員を確保するとともに、教育水準の維持向上を図る観点から、中学校卒業生数や生徒の進路動向、学校規模、学校・学科の配置状況、欠員の状況などを勘案し、地域の実情などを考慮しながら策定しています。</p>
<p>② 現状のとおり、各市町の中学卒業生徒数を基に計画するのが妥当。ただ、各自治体のまちづくりを踏まえた学校の在り方などの考えもあるので、広く意見を求めながら、柔軟に判断していくしかないと思う。</p>	<p>○ 中学校卒業生数が減少する中、生徒の実態を踏まえた教育課程を編成し、活力ある教育活動を展開する観点から、再編整備などを含めて高校の配置を検討していますが、本道は広域で、それぞれの地域事情も異なることから、都市部と郡部の違いや地域ごとの特性などを十分考慮した特色ある高校づくりに取り組むとともに、適切な高校配置に努めます。</p>
<p>【策定方法・示し方】</p> <p>③ 少子化が進む中、配置計画の考え方は理解できる。そのために間口減や統廃合はやむを得ない。だからこそ、早い段階から地域での説明（協議会の開催）が必要であると思う。</p>	<p>○ 配置計画の策定に当たっては、人口減少社会への対応や地方創生の観点から、地域の教育機能を確保するための方策などを示す「これからの高校づくりに関する指針」に基づき、地域ごとの特性や実情、高校に対する地域の期待も十分踏まえるとともに、小学校の校長や保護者にも参加いただいている地域別検討協議会において、地域の方々の御意見を伺うほか、地元の検討の場などにおいても道教委の考え方などを説明し、御意見をいただきながら検討しています。</p>
<p>④ 小規模校の普通科は、多様な分野の学びが特に必要と考えるが、学科の内容を決定する際は、是非、地域の声を十分に聞いて決定していただきたい。</p>	<p>○ 今後とも、今後の中学校卒業生数の状況を踏まえた上で、本道の広域性や地域の実情などを考慮し、地域の方々の御意見を丁寧に向いながら検討を進めるとともに、関係市町村に対して、配置計画の検討に必要な情報を早期に提供するなど、地域での議論が一層深まるよう努めます。</p>

<p>【再編等（地域の実情等）】</p> <p>⑤ 道内の郡部の高校の配置状況は、生徒の通学の便を考えると、これ以上減らしようがないレベルである。地元中学校からの入学者がゼロにならない限りは維持する覚悟が必要になってきている。</p>	<p>○ 高校配置の検討に当たっては、広域で地域事情も異なる本道の特性を踏まえ、高校配置が地域に与える影響、高校に対する地域の期待や取組などを含め、地域の実情を十分考慮する必要があると考えています。</p>
<p>⑥ 生徒、保護者のニーズ、通学にかかる負担等に、ご配慮いただきながら、適切な配置をいただきたく思う。</p>	<p>○ 急激な人口減少が進む中、地域の教育機能を維持・向上させることは極めて重要な課題であり、特に郡部においては、交通機関の状況や、自治体に一つの高校しか存在しない場合が多いこと、地理的状況等から再編が困難な場合があることなど、都市部と異なる状況があり、地域ごとの特性や実情を十分に考慮する必要があると考えています。</p>
<p>⑦ 今後ますます小規模校が増えていくと考えられ、広い管内に1、2校しか学校がない状況も想像される。視界がきかないほどの地吹雪が日常茶飯事のように起こる、冬の日本海側で毎日長距離のバス通学させるのは本当に心配。それぞれの地域の事情に合わせて、安全に通えることを大切に考えていただきたい。</p>	<p>○ こうしたことから、再編については、一律に行うのではなく、本道の広域性や地域の実情などを考慮し、地理的条件から再編が困難な場合などには、地域連携特例校として存続を図ることとしています。</p>
<p>⑧ 子供の数が今後減少していく中、間口をただ減らしたり、廃校にしたりするのではなく、地域の実状を十分に勘案した配置計画にしてほしい。</p>	<p>○ 今後とも、高校配置計画の策定に当たっては、各年度の中学校卒業生数の状況も踏まえた上で、都市部と郡部の違い、学校・学科の特性、生徒の進路動向、私立高校の配置状況などを勘案するとともに、地域の方々の御意見を丁寧に伺いながら検討を進めます。</p>
<p>【再編等（小規模校の役割）】</p> <p>⑨ 小規模校や職業学科のある高校は地域とつながりやすく、地域の特色を生かして子供たちに経験させることができ、行動も起こしやすい。地域の目で子供たちを見守り、育てて行くには人数が少ないこともメリット。コロナ対応などは小規模校ができることも多い。</p>	<p>○ 小規模校は、きめ細かな指導や地域と連携した取組など、特色ある教育活動を展開している一方で、教員が少ないことから、生徒の多様な学習ニーズに対応した教育課程の編成や部活動に制約があることや、生徒同士が切磋琢磨する機会に乏しいといった課題もあると考えています。こうした中、高校は、生徒や地域の実情などに応じて、特色ある教育活動を行うとともに、文化・スポーツ活動といった生涯学習の場として役割を担っており、地域の教育機能を確保することは重要であると考えています。</p>
<p>⑩ 小規模、少人数の高校は地元中学生のニーズがどのようなものであるか、校区中学校との連携を密にするための施策が必要。</p>	<p>○ 中学校卒業生数の減少が引き続く中、高校の教育環境を整え、生徒の進路実現を図っていくためには、高校は一定の規模を有することが望ましく、今後も高校の再編は避けられないものと考えておりますが、再編整備を進めるに当たっては一律に行うのではなく、本道の広域性や地域の実情なども考慮し、小規模校であっても、地理的条件などから再編が困難な場合には、地域連携特例校として存続を図ることとしています。</p>
<p>⑪ 少子化が進むのは既に分かっていたことであり、小規模校の募集停止は仕方ない。地域の高校が募集停止となった時には、生徒や保護者は、金銭面以外でも相当な負担がかかるため、補助は手厚くしていただきたい。</p>	<p>○ 平成30年3月に策定した「これからの高校づくりに関する指針」において、人口減少社会への対応や地方創生の観点から、地域連携特例校などに係る再編基準を緩和したところであり、道教委としては、遠隔システムによる教育環境の整備や、市町村教育委員会・地元企業等との連携・協働による特色ある教育活動などを通して、一層魅力のある高校となるよう、きめ細かな支援に努めます。</p>
<p>⑫ 地域に密着した小規模校は、これまで次代を担う多くの生徒を世に送り出し、地域の進展にも多大な貢献をもたらしている。特産品の開発など様々なリーダーシップと連携を生かし、企業においても、地元での就職を希望している生徒を受け入れるために、体制を整え、積極的に取り組んでいる。地域と密着した高校の間口が削減されることによって、地域を支える貴重な人材が流出のおそれがあることから、子供たちとの学びの場の確保のために高校の間口継続が必要。</p>	<p>○ 今後とも、将来の本道や地域の発展に寄与することができる人材の育成に向け、地域の方々の御意見</p>
<p>⑬ 地方の市町村にとって高校は1つの教育機関だけでなく、地域振興のために欠かせない大切な役割がある。若い世代が集うだけでなく、その世代を支える地域の方々が集ってくるプラットフォーム的な役割を担っている。地域にとっての高校がいかに大切であるのか、高校の存続が地域の振興、活性化</p>	

<p>に大きな役割を果たしていることを理解いただきたい。</p>	<p>などを十分伺いながら、適切な高校配置に努めます。</p>
<p>【私学・高専との関係】</p> <p>⑭ 公立学校の定員調整数と実際の中学校卒業生数が乖離している。公立学校が定員割れしている状況下では、私学は教育活動を行うのは難しくなってしまうため、中学校卒業生数の減少に応じた適正な学級減をしていただきたい。</p> <p>⑮ 国の就学支援制度により、公私間における授業料での格差がなくなっている現状を踏まえ、古くから特色ある高校づくりをしてきた私立高校へ働きかけをすべきと考える。</p> <p>⑯ 私立高校も、様々な補助を受けているのであれば、全体の定員調整に加えるべきである。</p>	<p>○ 配置計画の策定に当たっては、地域別検討協議会で私学関係者からも御意見を伺うとともに、私立・公立高校関係者と知事部局及び道教委による「北海道公立高等学校協議会」を設置し、中学校卒業生数を踏まえた公私双方の入学定員の考え方などについて協議しています。</p> <p>○ 公立高校の配置に当たっては、いわゆる高校標準法において、私立高校等の配置状況を十分考慮しなければならないとされていることから、私学所在学区ごとの私立高校の配置状況に配慮し、中学校卒業生数の状況に応じた一定の比率に基づく定員調整を行っています。</p> <p>○ 今後とも、私立高校などの関係者と十分協議しながら、適切な定員調整となるよう努めます。</p>
<p>【学級定員の引き下げ】</p> <p>⑰ 「高校における教育水準の維持」や「活力ある教育活動の観点」から、今後の生徒数の見通しを考えると、間口削減よりも高校教育の充実や質の向上が大切であり、高校においても35人学級の実現が優先されるべき。</p> <p>⑱ 義務教育でも、35人学級が動き出し、小学校の後は中学校が35人学級を実施していく流れである。高校においても、減少幅の大きい地域・職業学科・定時制課程からなど生徒の減少の状況に応じて、35人学級の実施に向けての検討を進めていただきたい。</p> <p>⑲ 今後小学校で35人学級が実現していく。その後中学校でも行っていく計画になっている。高校においても少人数学級が実現することで様々な問題が解決していくと思うので、是非国への働きかけをお願いしたい。</p>	<p>○ 学級編制に係る国の定数改善が行われていない状況から、本道独自の少人数学級の導入は、現段階では難しいものと考えており、国に対し引き続き定数改善を要望していきます。</p> <p>○ これまでも、道教委では、1間口の道立高校に対する独自加配のほか、国の加配定数を活用した様々な加配を行っており、今後も、個に応じた指導の充実や新たな教育課題に対応するための定数措置の拡充について、国に対し引き続き要望していきます。</p>
<p>【望ましい学校規模】</p> <p>⑳ 自分の町から高校が無くなることは、かなりショックな出来事であると思う。しかし、子供たちの多様な学びを保障することを考えると、一定以上の学級数を確保することは必要。高校こそ、ためになると思える授業がたくさんある様にしていくことが重要であると考えます。</p> <p>㉑ 生徒数の増減により、間口の調整をしたしなければならないことは理解している。3間口以上ある高校は、各行事・部活動も支障なく活動ができるが、1～2間口校では、明らかに生徒数の減少により、行事に支障を来し、部活動ができなくなる種目も出て来るため、「学校生活を送りづらくなるような間口調整」は考慮が必要ではないかと考えている。</p>	<p>○ 小規模校は、きめ細かな指導や地域と連携した取組など、特色ある教育活動を展開している一方で、教員が少ないことから、生徒の多様な学習ニーズに対応した教育課程の編成や部活動に制約があることや、生徒同士が切磋琢磨する機会に乏しいといった課題もあると考えています。</p> <p>このため、学校規模については、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学習ニーズに応える多様で柔軟な教育課程が編成できる ・多様な個性を持つ生徒と出会うことにより、お互いに切磋琢磨する機会が得られる ・より多くの教職員の指導により、多様な見方や考え方が学べる ・生徒会活動や部活動が活性化し充実する <p>などの考え方から、可能な限り1学年4～8学級の望ましい規模を維持することとしています。</p>

■ 高校配置計画の策定	□ 学区ごとの状況
意見又はアンケートの概要	道教委の考え方
<p>【空知南】</p> <p>① 道教委としては岩見沢東高校で令和6年度に1間口減にして、令和10年度にさらに1間口減ということはあるか。</p>	<p>○ 令和10年度に大幅な中卒者の減が見込まれており、欠員の状況や学校・学科の配置状況を考慮して、岩見沢市内において再編整備を含めた公立高校全体での定員調整の検討が必要と考えていますが、できる限り生徒の進路選択幅を確保できるよう検討したいと考えています。</p>
<p>【空知北】</p> <p>② 生徒の学びの保障、高校に入学する時の選択の保障を考慮し、各個別の学校間口及び空知北学区全体における間口の調整について、十分考慮しながら、計画していただきたい。</p>	<p>○ 空知北学区については、令和7～10年度の4年間に学区全体で2～3学級に相当する中卒者の減が見込まれていることや、可能な限り1学年4～8学級の望ましい規模を維持することとしていることから、滝川市内及び深川市内において、再編を含めた早急な定員調整の検討が必要と考えているところですが、生徒の学びの保障や進路選択幅の確保の観点も踏まえ、地域の方々の意見を伺いながら、検討を進めます。</p>
<p>【石狩】</p> <p>③ 学級数減や再編は仕方がないかと思うが、そのことについては、なるべく早い時期に中学生に伝えてほしい。</p>	<p>○ 配置計画は、「中長期的な視点に立って示してほしい」という地域の御意見を踏まえ、できるだけ早い段階で中学生の進路選択に資するよう、3年先の姿を示すこととしています。</p>
<p>【後志】</p> <p>④ T-baseの取組は、地域の子供たちだけでなく移住定住にも効果があるように思うので、ぜひ導入できる学校が1校でも増えるよう、どんな学校でもきっちりと活用できるよう柔軟な導入条件の設定をしていただきたい。</p>	<p>○ 北海道高等学校遠隔授業配信センター(T-base)では、地域の小規模な高校(当面は、地域連携特例校及び離島にある道立高校)に対し遠隔授業を配信することを目的に令和3年度に設置しました。開設年である令和3年度は、新1年生を対象に、27校に対して8教科21科目を配信しています。令和4年度には、対象学年を1、2年生に拡大し、令和5年度には、全学年に遠隔授業を配信する予定です。</p>
<p>【胆振西】</p> <p>⑤ 令和6年度は間口調整なしとの事だが、次の7から10までの4年間の大幅な減少の前年度になるので、欠員の状況等も鑑みて、令和6年度においては改めて1間口減の再考をお願いしたい。</p>	<p>○ 胆振西学区については令和6年度の中卒者数の減少幅が少ないこと、さらにはその減少が各市町村に分散していることから、令和6年度は間口減を行っていませんが、公立高校の配置に当たっては、いわゆる高校標準法において、私立高校等の配置状況を十分考慮しなければならないとされていることから、今後も中学校卒業生数の状況に応じた一定の比率に基づき定員調整を行います。</p>
<p>【胆振東】</p> <p>⑥ 地域の学校を残していくためには、苫小牧市内の学校の再編が必要なのではないだろうかと感じている。今までの方法で解決できるのか、それとも伊達開来高校のように統廃合を行って、苫小牧でもそのような取組が今後計画されていくのか。</p>	<p>○ 胆振東学区は石狩学区の次に中卒者数の減少が少なかった地域であり、これまで学校の再編を行ってこなかった経過があるものの、今後は生徒が減少していくことから、将来的には苫小牧市や周辺町において再編整備を含めた検討が必要と考えています。</p>

<p>【日高】</p> <p>⑦ 高校に通いたいのに、通える高校がないということにならないために、中卒者数に見合った間口の確保を考えていただきたい。</p>	<p>○ 高校進学希望者に見合った間口を確保することが、高校配置計画の基本となっています。</p>
<p>【渡島】</p> <p>⑧ 函館高専を含めた配置計画の再編や定員調整の考えはあるのかお聞きしたい。</p>	<p>○ 国立高等専門学校等の定員調整については、高専の本部に当たる(独法)国立高等専門学校機構に対し、毎年(6～7月)、文書で定員の遵守や定員調整の検討について依頼するとともに、道内4高専(苫小牧、函館、旭川、釧路)に対しても、直接訪問のうえ、中卒者数の減少を踏まえた定員調整に配慮していただくよう要望しています。</p>
<p>【檜山】</p> <p>⑨ 習熟度を高めて目的ある先生と生徒が一体となつてやるとすれば、数が少なれば少ないほど精度が高くなるので、そのことにもしっかり向かい合っていていただいて、学級定員の改善に向けて努力いただきたい。</p>	<p>○ 高校の教職員定数については小中学校とは異なり、学級数ではなく生徒の収容定員で定めており、例えば40人学級を35人に引き下げると、その分、国からの教員の定数が措置されないこととなるため、毎年国に対して学級定員の引き下げや教職員定数の改善を強く働きかけているところであり、今後も引き続き努力していきたいと考えています。</p>
<p>【上川南】</p> <p>⑩ 少子化が進む中、高校の配置に関わる計画に理解を示してほしいのは、保護者や地域関係者だと思う。それらの方々に参加してもらって説明会に注力すべきと思う。</p>	<p>○ 道教委では、高校の配置について意見交換するため、全道19学区ごとに地域別検討協議会を開催しており、地域の様々な立場の方から御意見を伺うことや、保護者や地域の方々に早い段階から高校の配置について理解いただくことが重要であることから、平成28年度から小学校の校長やPTA関係者、また平成30年度からは各市町村で組織されている「商工会議所」及び「商工会」の職員を参加対象者としました。</p>
<p>【上川北】</p> <p>⑪ 名寄市新設校について、全国募集の可能性を模索している。どのような方法で全国募集できるのか知りたい。</p>	<p>○ 全国募集については、農業・水産及び地域連携特例校と離島にある道立高校に対して、地域の教育活動で10単位以上開設するという条件が満たした場合、道外からの入学を認めています。名寄高校はそのどちらでもないため、現在のところ対象とはなっていません。</p>
<p>【留萌】</p> <p>⑫ 全道的に中卒者の数が減少傾向にあり、留萌管内も同様です。募集停止などで近くに高校がなくなると、地方に住む子供たちはとても不利になるし、保護者にとっても経済的・精神的にも大きな負担となる。なんとか、存続する方向で考えていただきたい。</p>	<p>○ 中学校卒業生数の減少が引き続く中、高校の教育環境を整え、生徒の進路実現を図っていくためには、高校は一定の規模を有することが望ましく、今後も高校の再編は避けられないものと考えておりますが、再編整備を進めるに当たっては一律に行うのではなく、本道の広域性や地域の実情なども考慮し、小規模校であっても、地理的条件などから再編が困難な場合には、地域連携特例校として存続を図ることとしています。</p>
<p>【宗谷】</p> <p>⑬ 離島においては、学級減(複数学科→単学科)は選択肢の著しい減少になりかねない。そうならないような学科編成をお願いしたい。生徒及び保護者の希望が叶うような柔軟な学科編成と財政面を含めた支援をお願いしたい。</p>	<p>○ 利尻高校については、近年、島内(利尻町、利尻富士町)の中卒者数の減少に伴い、入学者数が減少し、今後も40人以上の入学者数が見込まれないことから、学級減としたところですが、国の配置定数にプラスして道単独でも教員を配置するほか、令和3年度から運用開始した北海道高等学校遠隔授業配信センター(T-base)による授業も実施し、生徒の進路希望に対応したいと考えています。</p>

<p>【オホーツク中】</p> <p>⑭ 留辺蘂高校の募集停止は地域にとって大きな損失。機械的な間口削減や再編統合により、この地域の生徒達の選択の幅が狭まることのないよう、改めて慎重な判断と対応を強く求める。さらに根本的な問題として、1学年1学級の小規模校が多い道内の現状と合わなくなっているこれからの高校づくりに関する指針の見直しの必要がある。</p>	<p>○ 留辺蘂高校については、今年度の入学者数が11人に留まるなど、中卒者数や生徒の進路動向などに大きな変化は見られないことなどから、令和5年度に募集停止とせざるを得ないという道教委の方針は、変更する状況とはなっていないと判断したところで、</p> <p>指針については、教育環境の変化や地域の教育課題等に的確に対応するため、国の施策の動向や時代の要請等を踏まえ、必要に応じて適宜、見直しを図ることとしたいと考えています。</p>
<p>【オホーツク東】</p> <p>⑮ 通学補助期間を募集停止後5年で切るのはどうか。その地域に子供がいる限り補助すべきではないか。</p>	<p>○ 通学費等補助制度については、激変緩和措置として創設したものであり、従前から高校のない市町村との均衡を考慮し、当該高校が募集停止となる前年度に中学生であった生徒が高校を卒業するまで補助金を受給できるよう、補助期間を5年間としているところですが、</p> <p>補助期間の延長については、制度創設時に想定しえなかった状況の変化などが無い限り難しいものと考えておりますが、地域別検討協議会などのご要望を踏まえ、控除額を引き下げて1万円を超える額を補助することとしたほか、補助金を月ごとに支払いができるよう改善しています。</p>
<p>【オホーツク西】</p> <p>⑯ 興部高校については入学者が20人を割って再編整備を留保されている状況である。その年により、卒業生の進路や進学それからクラブ活動においてもすごく多様であり、近隣高校の状況にも影響されることもあるため、一概に基準にあてることなく、地域にとっての高校の存在価値また将来的な状況、そして高校の努力、地元からの進学状況など全てを総合的に勘案して頂き判断していただきたい。</p>	<p>○ 「これからの高校づくりに関する指針」において、第1学年1学級の高校のうち、地域連携特例校及び農業、水産、看護又は福祉に関する学科を置く高校については、所在市町村をはじめとした地域における、高校の教育機能の維持向上に向けた具体的取組とその効果を勘案した上で、再編整備を留保することとしていますが、再編整備を留保した場合であっても、「5月1日現在の第1学年の在籍者数が2年連続して10人未満となった場合には、再編整備を進めます。」としているところです。</p> <p>道教委としては、第1学年の在籍者数が20人を超えることができるよう、高校の特色のこれまで以上のPRや、地域の特色を生かした教育内容の改善・充実などに、市町村とも十分連携し取り組んでまいります。</p>
<p>【十勝】</p> <p>⑰ 少子化が進む中で高校の再編や統廃合、定員調整は避けられない問題ではあるが、特に郡部にある小規模校では、単純に入学者が少ないと間口を減らしている。しかし小規模校は大規模校とは違うメリットや魅力、自宅から通うことができるなど、さまざまな事情もある。配置計画にあたっては地元自治体との関係もあることから、議論には慎重に進めていただき、納得性や将来性を見据え、数字だけが一人歩きしないよう対応を求める。</p>	<p>○ 高校配置計画の策定に当たっては、高校進学希望者数に見合った定員を確保することを基本として、中学校卒業生数の状況のほか、都市部と郡部の違いや学校・学科の配置状況などを勘案して検討しており、今後も、高校が地域で果たしている役割など、それぞれの地域ごとの実情等を十分考慮するとともに、地域の方々の意見を伺いながら、適正な高校配置となるよう、努めます。</p>
<p>【釧路】</p> <p>⑱ 釧路管内は、令和6・10年度に中卒者減の大きな山が来る。間口減を念頭に様々な検討が必要になると思うが、特色ある高校づくりに尽力願う。</p>	<p>○ 令和6・10年度における中卒者の減少が大きいことから、間口減を含めた定員調整の必要性がありますが、間口減にあたっては、内容の充実をあわせて行いたいと考えています。</p>

<p>【根室】</p> <p>⑱ 地域連携特例校である羅臼高校だが、令和3年度の入学生が昨年度と比べ激減している。今年度も幼小中高一貫協議会で各所と情報共有を行う等、魅力の発信をし、選ばれる学校を目指していく必要がある。</p>	<p>○ 道教委としても、地域連携特例校である羅臼高校に対して、本年4月に開設した、北海道高等学校遠隔授業配信センターから、授業を配信するなどして、多様な進路希望に対応し、授業のさらなる充実と学びの質の向上を図るとともに、地域の教育資源を積極的に活用した特色ある教育活動などを進め、子供たちが自らの進路選択はもちろん、将来の夢を実現できる教育環境の維持・向上を図り、魅力ある高校づくりに努めます。</p>
---	--

■ 職業学科の充実	
意見又はアンケートの概要	道教委の考え方
<p>【職業学科の配置の在り方】</p> <p>① 日本の食を支える北海道において職業高校は大事な学びの場だが、農業高校のない学区もある。ふるさとの高校に通いながら、職業高校の授業を遠隔で学び、将来の職につなげるような選択制の教科が実現してほしい。</p>	<p>○ 職業学科においては、本道の産業を支える人材を育成するため、専門分野の基礎的・基本的な知識・技能をはじめ、より実践的な技術を習得させるとともに、大学や研究機関、地元企業などと連携し、商品開発やものづくりに取り組むなど、実践的な教育活動を推進しています。</p>
<p>② 地域における職業科が次々となくなっており、農業の学科統合等様々なことをしていく中で、北海道の地域における人づくりが教育の中では一切語られていない。地域における専門職の担い手が少なくなってしまう。地域における高等学校教育とはどうあるべき、人づくりはどうするのかということ、真剣に考えなければいけない時期にきていると思う。</p>	<p>○ 生徒の多様な学習ニーズに対応するとともに、地域産業との関わりなど、地域の特性を生かした魅力ある高校づくりを進め、本道の持続的な発展に寄与する人材を育成できるよう、地域の方々の要望等を十分に伺いながら、社会の変化に対応した学科構成等について検討します。</p>

■ その他	
意見又はアンケートの概要	道教委の考え方
<p>【地域への説明等】</p> <p>① 生徒の学習環境を保障するために、きめ細かな情報提供と学校の意見や意向をくみ上げる等の期間を設けてほしい。</p>	<p>○ 高校配置計画の策定に当たっては、各通学区域において、計画案の策定前と策定後の2回にわたり、地域別検討協議会を開催しています。</p>
<p>② 様々な角度からの、高等学校の適正配置であると踏まえている。今後も、子供たちの教育の質が担保できるよう、このような会を設けられることを望む。</p>	<p>○ 第1回目の協議会では入学者選抜における入学状況、生徒の進路動向、今後の中学校卒業生数の見込みなどを説明し、第2回目では計画案の考え方などについて説明し、地域の方々から御意見などを伺っています。</p> <p>また、地域から要望があった場合などは、地元主催の説明会にも出向くなどして、道教委の考え方について説明を行っています。</p> <p>今後とも、地域の方々の御意見などを伺いながら、検討を進めます。</p>
<p>【地域別検討協議会】</p> <p>③ Web 会議の方が移動に伴う時間が無くなり、効率的であるが、対面して意見や説明をお聞きした方が理解できるため新型コロナウイルス感染症対策が十分にできる場合には、対面で開催した方が良い。</p>	<p>○ 第2回地域別検討協議会については、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、対面会場とWeb (Zoom) 会議を設定し、参加者が参加方法を選べる形式としました。</p> <p>配付資料は Web ページ上での掲載とし、意見については、電子申請システムを活用して取りまとめました。</p>

④ 北海道の広域性を考えると、Web 会議による開催は、有意義だと思います。

○ 今後も開催日時や場所の見直しのほか、運営方法や資料内容などについて、いただいた御意見なども参考にしながら、地域別検討協議会の工夫・改善に努めます。